慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	北朝鮮のインバウンド政策
Sub Title	The tourism policy of North Korea
Author	礒崎, 敦仁(Isozaki, Atsuhito)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、資料的制約の大きい北朝鮮研究分野において、例外的に多様な資料を入手することができる「観光」に着目し、北朝鮮が外国人観光客をいかに受け入れてきたか、そのインバウンド政策を明らかにすることにある。 北朝鮮は、外貨獲得と体制宣伝という二つの目的から外国人の観光客受け入れを積極的に行いつつも、国内情報の流出と国外情報の流入を避けるため、自由行動を許容しない姿勢を維持し続けている。これは北朝鮮独自のやり方ではなく、旧ソ連や旧ビルマなどの権威主義体制下で実施されてきた「バウチャー式観光」の一形態であると言える。 北朝鮮が1987年に日本人観光客を受け入れ始めてからの経緯を振り返ると、日朝関係を俯瞰することもできる。1990年代半ばには年間3,500人もの観光客が日本から訪朝していた年もあり、JTBや近畿日本ツーリストなど大手旅行会社が北朝鮮ツアーを募集し、名古屋や新潟から平壌への直航チャーター便も出ていた。拉致・核・ミサイル問題など日朝関係の悪化に伴い、北朝鮮観光は中止と再開が繰り返されたが、近年では比較的スムーズな受け入れが続いている。平壌を中心に国内経済がある程度回復して自信を深めたこととともに、実利を優先しているのであろう。 金正恩国務委員長は、日本海沿いの元山葛麻海岸観光地区や温泉観光地区の開発を命じ、観光事業への関心を高めている。また、事実上朝鮮国際旅行社の一社独占だった外国人観光客の受け入れ態勢を崩し、複数社が国家観光総局の下で競争する状況が生まれている。 本年度は、これらについて論文を公刊することができた。今後は南北朝鮮間の観光事業など検証対象を広げ、国際会議での発表を経て単行本の出版を目指したい。 The purpose of this study is to investigate the inbound tourism policy of North Korea. North Korea has actively accepted foreign tourists including Japanese nationals for two purposes, foreign currency acquisition and the regime's promotion. Looking back on the circumstances since North Korea began accepting Japanese tourists in 1987, it is possible to overlook the relationship between Japan and North Korea. In this fiscal year, I was able to publish an academic paper on this theme. In the next year, I will publish a book after a presentation at an international conference.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180126

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年 3 月 30 日

2018 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	法学部	職名	准教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	礒崎 敦仁	氏名（英語）	ISOZAKI Atsuhito		

研究課題（日本語）

北朝鮮のインバウンド政策

研究課題（英訳）

The Tourism Policy of North Korea

１．研究成果実績の概要

本研究の目的は、資料的制約の大きい北朝鮮研究分野において、例外的に多様な資料を入手することができる「観光」に着目し、北朝鮮が外国人観光客をいかに受け入れてきたか、そのインバウンド政策を明らかにすることにある。

北朝鮮は、外貨獲得と体制宣伝という二つの目的から外国人の観光客受け入れを積極的に行いつつも、国内情報の流出と国外情報の流入を避けるため、自由行動を許容しない姿勢を維持し続けている。これは北朝鮮独自のやり方ではなく、旧ソ連や旧ビルマなどの権威主義体制下で実施されてきた「バウチャー式観光」の一形態であると言える。

北朝鮮が 1987 年に日本人観光客を受け入れ始めてからの経緯を振り返ると、日朝関係を俯瞰することもできる。1990 年代半ばには年間 3,500 人もの観光客が日本から訪朝していた年もあり、JTB や近畿日本ツーリストなど大手旅行会社が北朝鮮ツアーを募集し、名古屋や新潟から平壌への直航チャーター便も出ていた。拉致・核・ミサイル問題など日朝関係の悪化に伴い、北朝鮮観光は中止と再開が繰り返されたが、近年では比較的スムーズな受け入れが続いている。平壌を中心に国内経済がある程度回復して自信を深めたこととともに、実利を優先しているのであろう。

金正恩国務委員長は、日本海沿いの元山葛麻海岸観光地区や温泉観光地区の開発を命じ、観光事業への関心を高めている。また、事実上朝鮮国際旅行社の一社独占だった外国人観光客の受け入れ態勢を崩し、複数社が国家観光総局の下で競争する状況が生まれている。

本年度は、これらについて論文を公刊することができた。今後は南北朝鮮間の観光事業など検証対象を広げ、国際会議での発表を経て単行本の出版を目指したい。

２．研究成果実績の概要（英訳）

The purpose of this study is to investigate the inbound tourism policy of North Korea. North Korea has actively accepted foreign tourists including Japanese nationals for two purposes, foreign currency acquisition and the regime's promotion. Looking back on the circumstances since North Korea began accepting Japanese tourists in 1987, it is possible to overlook the relationship between Japan and North Korea.

In this fiscal year, I was able to publish an academic paper on this theme. In the next year, I will publish a book after a presentation at an international conference.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）
礒崎敦仁	金正恩政権初期の北朝鮮観光	国際情勢	2019 年 3 月